

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年2月14日

事業所名 桑名市療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	82%	18%	今の施設ではギリギリの部屋数。コロナ禍でたくさんの方が部屋に入ること難しい。各部屋が欲しい。利用定員はない?以前の施設での対応のため、部屋の数など厳しさを感じる場面がある。	・来年度からは新施設に移転し、部屋数が増えたり遊具置き場が設置されるなど環境面で改善する予定。 ・職員体制については、母子分離の場合子ども2人に対し職員1人の対人数ではあるが、個別に支援が必要な子どももいるので、実際はそれ以上の職員人数で対応している状況であり、療育時間が長くなる職員もいる。来年度は職員数も増える予定であり、職員間で連携しながら工夫し、働きやすい環境づくりをしたいと考えている。
	2	職員の配置数は適切である	36%	64%	職員数に余裕はないが、何とか工夫している状況。できればもう少し余裕が欲しいと感じる。余裕がない日が多い。事務員さんも再度もう1名来てもらえるといいのではないかと。休憩時間の確保ができていない。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	64%	36%		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	73%	27%		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	73%	27%		・保護者の声を反映し、内容によってはその都度改善をしている。また今年度新しい体制になり、職員間で話し合う機会を設け、日々の問題点など改善に努めていきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	64%	36%		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	70%	27%		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%			・療育の開始前には、内容や役割分担の確認を行っている。また療育終了後には振り返りを行い、子どもの姿の共有や支援について話し合い、次の療育に活かすようにしている。 ・専門職にも療育に参加してもらうことで、専門的な意見や支援の仕方を学ぶなど、多方面から子どもを捉えられるよう努めている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	70%	27%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	82%	18%		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	90%	10%		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	82%	9%	情報提供等がない。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	82%	9%		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	82%			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	90%	10%		・市の関係機関から発達検査等の情報の提供は行っている。今後も連携した支援を行っていきたく考えている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	82%	18%		・協議会、部会への参加は行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	90%	10%		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	90%	10%		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	45%	45%		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%			
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	90%			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	90%	10%		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			・障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達の配慮については、子どもには専門職からの助言ももらいながら、個々に合わせた配慮(視覚的にわかりやすくする等)を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%			
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			・保護者には療育後時間を設けたり、個々に対応するようにしている。それらの内容や個々に対する配慮に関しては職員間で共有していくことを心掛けていくようにする。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	55%	36%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	90%	10%		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	90%	10%	役割等を把握していない。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	55%	27%	行事はまだ行った事がないため、いいえを選択。	・防災マニュアルを作成し、毎月の避難訓練の中で災害、不審者等様々な場を想定し訓練を行っている。その都度役割は確認しているが、再度職員全員に周知していくようにする。